

## 第29回 経営協議会 議事要録

日 時 平成21年10月22日（木）13時30分～14時50分  
場 所 事務局第二会議室  
出席者 宮田亮平学長、三浦春政理事、玉井賢二理事、  
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、  
石田義雄委員、海老澤 敏委員、佐々木正峰委員、  
高階秀爾委員、中村胤夫委員、根本二郎委員、  
末永壽男会計課長  
監事：中島尚正監事、竹内雄也監事  
欠席者 なし

### 議題

#### 1. 平成21年度下半期執行計画について

議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

#### 2. その他

##### ○平成21年度人事院勧告について

議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、給与等改定は、本人事院勧告に概ね準拠することを了承した。

### 報告及び連絡事項

#### 1. 平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。

（主な意見）

- ・具体的にはどのような事項が高い評価を得られたのか。
- ・大学評価は、①財務状況、②教育、③研究、④社会貢献について評価しているが、評価のウエイトが研究に偏っているような気がする。

#### 2. 平成22年度概算要求に係る重点事項の概要について

標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。

（主な意見）

- ・新政権は、運営費交付金1%削減を見直すのか。
- ・新政権は教育に力を入れているようだが、文化・芸術に関して言及していないことが心配である。
- ・今後の日本が目指すべきことは、教育・文化立国及び科学・技術立国を両輪とした国作りである。
- ・予算編成は、官僚主導から閣僚主導へと変わっており、今までと同様の概算要求をしてはだめである。

- ・ 予算要求のひとつの手法として、「科学と芸術は一体のもの」であるという概念を強調するとよい。
3. 平成20事業年度財務諸表の承認について  
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
  4. 平成21年度人事院勧告について【議題へ変更】
  5. 国立大学の現状に関する説明資料について  
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
  6. 平成21年度寄附金受入状況（平成21年4月～6月入金分）について
  7. 平成21年度寄附金受入状況（平成21年7月～9月入金分）について  
標記のことについて、6. 7. 併せて会計課長から、資料に基づき報告があった。
  8. その他  
(主な意見)
    - ・ 人件費を削減されている中、教員の不採用や採用を遅らせる等、様々な工夫をしているが、教育の質を確保するために、カリキュラムの見直しを行い、質の確保に努めなければならない。教育の質の確保は、大学として譲れない部分であり、削減により質の低下をまねきかけないことを声を大にして主張すべきである。
- 美術学部長から、机上配布資料の「上野タウンアートミュージアム（UTM）」について報告があった。
  - 映像研究科事務長から、机上配布DVD「東京藝術大学大学院映像研究科第三期生修了作品集2009」について報告があった。
  - 社会連携推進課長から、机上配布資料「芸大アーツ イン 東京丸の内」について報告があった。
  - 演奏芸術センター長から、「芸大21 アジア・躍動する音たち」（11/1（日））に視覚障害者100名（補助者を含む）を招待する旨の報告があった。
  - 渡邊理事から、芸大と理化学研究所との連携協力記念シンポジウム「未来を拓く～科学と芸術の交差～」（11/15（日））について報告があった。
  - 議長から、奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろうVI」（11/14（土））及び国立大学協会広報誌「JANU」について報告があった。
  - 社会連携推進課長から、「東京藝術大学2010カレンダー」について報告があった。